

道の駅「京丹波 味夢の里」 ～「休憩ニーズ」と「地域振興ニーズ」のマッチング（京都府京丹波町）～

【京都財務事務所】

1. 京丹波町の概要

京丹波町は、平成 17 年 10 月 11 日、船井郡に属する 3 町（丹波町、瑞穂町、和知町）が合併して誕生しました。人口は 15,405 人（平成 27 年 3 月 31 日時点 住民基本台帳より）。

京都府のほぼ中央部に位置し、面積の 83%を森林が占める農山村地域であり、丹波高原の気候、風土を生かした農業や畜産業が盛んに行われています。特に黒大豆、小豆、マツタケ、クリ、丹波牛が有名であり、総合的な食の供給地としての産地が形成されています。



2. 地域活性化へ向けた取組みについて

(1) 道の駅「京丹波 味夢の里」の整備について

同町では、平成 26 年度に「京都縦貫自動車道丹波綾部道路」の開通が予定（27 年度に延期されたが、平成 27 年 7 月 18 日（土）14 時に開通）されていたため、開通後は広域的な高速道路ネットワークが形成され、観光圏の拡大や物流の効率化による地域産業の活性化に寄与すると考えられる反面、開通に伴いこれまで一般道を利用していた車両の多くが京都縦貫自動車道を利用することとなり、「通過するまち」となり地域活力の沈滞が懸念されたことから「京丹波パーキングエリア」（国土交通省 近畿地方整備局）の整備に併せて、「休憩ニーズ」と「地域振興ニーズ」を結びつけた地域活性化の中心となる「道の駅」を整備することとしました。



道の駅の整備に当たっては、施設の魅力向上や地域振興に寄与する方策を幅広く検討するため、“民間事業者等が主体”となる事業アイデアを募集した結果、地域振興施設の設計、建設、運営及び維持管理までを民間事業者に一括して発注する DBO 方式（Design Build Operate、詳細は（4）参照）により実施することとしました。

また、DBO方式により事業を進めるに当たっては、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）に基づいた実施方針（案）等を策定・公表するとともに、一般的に馴染みが薄いことから、DBO方式の理解を深めることや町内業者の入札参画を促すことを目的として、複数回に亘る説明会や個別相談会等により周知を図っています。

(2) 施設概要等

- ▶ 所在地：京都府船井郡京丹波町曾根深シノ 65 番地 1（丹波 IC より北に約 2 km）
- ▶ 全体面積：約 34,000 m²
- ▶ 地域振興施設：特産物販売施設、情報発信施設、レストラン、フードコート、加工施設、交流広場、上屋、等
- ▶ 概算事業費：1,825 百万円（うち施設整備費 872 百万円）
- ▶ 財源内訳：社会資本整備総合交付金 741 百万円、過疎債 875 百万円（財政融資資金借入）、合併特例債 111 百万円（民間金融機関借入）、町単独費 98 百万円

(3) 施設面の特徴

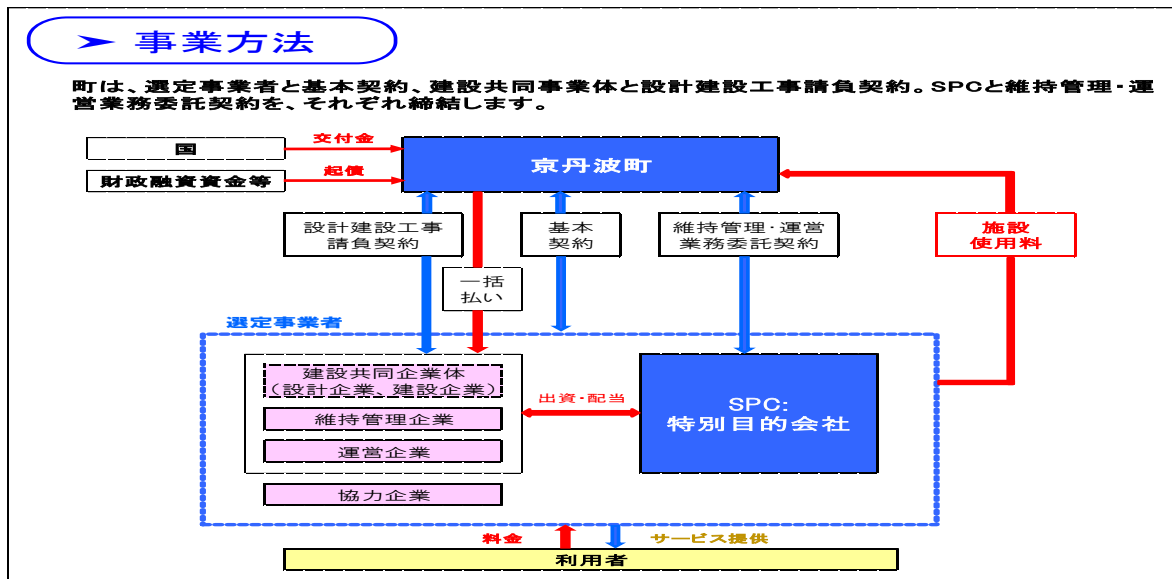
施設面の特徴としては、整備コンセプトを「～温かみとこだわりでもてなす京都丹波ブランドの発信基地～」とし、一般的な「飲食施設」や「特産物販売施設」以外にも、地域振興の面でも活用できるよう「交流広場」、「地域情報発信センター」、「周遊サービス施設」、「ミーティングルーム」、「防災拠点施設」、「会議室」等を整備しています（別紙参照）。



(4) 施設整備・運営手法面の特徴

施設整備・運営手法面の特徴としては、民間ノウハウ・経営能力等の活用を図るため、民間事業者に一括して発注する DBO 方式を採用しています。DBO 方式とは、同町が起債や交付金等により自ら資金調達し、施設の設計、建設及び維持管理・運営等を民間事業者に包括的に委託する方式で、一括発注による事業全体計画の最適化や、性能発注により民間事業者のノウハウを活かした建設費削減が図られるため、コスト削減が期待できることに加え、資金調達を同町が行うため、PFI 方式（Private Finance Initiative）のような民

間金融機関の資金調達に比べて金利コストを削減できるというメリットがあります。



従来方式とDBO方式の違い

	資金調達	設計・建設	維持管理	監視
従来方式	町	町 民間	町 民間	町
DBO方式	町	民間	民間	町
【参考】PFI方式	民間	民間	民間	町

項目	従来の民間委託・請負	DBO方式	【参考】PFI方式
委託期間	原則単年度	長期間(15~20年程度)	長期間(15~20年程度)
委託範囲	個別業務ごとの場合が多い	包括的	包括的
建設費	町が負担 (一般財源、補助金、起債等)	町が負担 (一般財源、補助金、起債等)	民間側が立替え (事業者が資金調達)
発注方法	仕様発注 (公共側の判断・仕様に基づく)	性能発注 (要求水準を自社責任で解釈)	性能発注 (要求水準を自社責任で解釈)
対価払い	個別業務ごとに一括で支払い	個別業務ごとに一括で支払い	委託期間中に平準化して支払い
リスク	基本的に町が負う	各契約書に定めた分担に基づく	事業契約書に定めた分担に基づく
業務改善 インセンティブ	働きにくい (民間事業者の創意工夫の余地小)	働きやすい (民間事業者の創意工夫の余地大)	働きやすい (民間事業者の創意工夫の余地大)

(5) 地元住民との連携

① 出荷者協議会の設立

道の駅で販売する京丹波産の野菜や加工品の供給を受けるための「農産物等直売所出荷者協議会」を設立し、地元から農産物等の出荷を通じ営農意欲を高めるとともに、食の供給地としての農村振興にも繋げることとしています。

② 地元区との連携

丹波自然運動公園と連携して魅力ある地域作りを目指し活動している地元の曾根地区では、新たに「京丹波町曾根活性化対策協議会」を設立し、曾根地域の産業・観光振興等を促進し、地域活性化と地域力向上を図ることとしています。

③ その他関係団体との連携

京都府立須知高等学校や平安女学院大学が「(京丹波の) ブランド検討委員会」に参画しているほか、オリジナル商品の販売や手作り観光マップの作成等に携わっています。また、京都府立林業大学校の学生が切り出し加工した木材を使用した什器を道の駅で使用する事としています。

(参考) 道の駅「味夢の里」グランドオープン：平成27年7月18日 AM8:30～

(※) プレオープン：平成27年7月12日 AM11:00～、12～14日にかけて「京都縦貫自動車道全線開通記念のイベント」を開催。なおプレオープンからグランドオープンまでは、通常時間を短縮して営業。

3. 今後に向けて

同町では、道の駅「京丹波 味夢の里」の整備以外にも、これまで実施していた「京丹波食の郷創造プロジェクト事業」をより充実・発展させた「京丹波町まるごと観光推進事業」を27年度から実施し、食をテーマとした様々な取り組みや、農産物の6次産業化を推進し、「食の郷・京丹波」として全国への流通拡大や町内への集客等を図る事としています。

まちの魅力向上に向けた取り組みや情報発信を進めつつ、これらを活かした観光振興策等により地域のさらなる活性化が期待されます。

(京丹波町 ホームページアドレス <http://www.town.kyotamba.kyoto.jp/>)

オープン前の準備状況 (6/24 撮影)



味夢の里 (施設正面側)



交流広場・上屋



地域情報発信センター



特産物販売施設



加工施設



塩谷古墳広場 (隣接)

(別紙)

導入機能		主なターゲット	導入コンセプト等	
交流拠点	賑わい創出	来訪者向け	交流広場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しむことのできる施設 家族皆で楽しむことのできる施設 立ち寄った人々（利用者）が地域の方々の暮らしに触れることのできる空間 古墳と水田（耕作放棄田も活用）等の京丹波の特徴ある風景を味わう場所や散策路 古墳を見渡ししながら地元食材を食べたり、リラックスしたりすることができるような空間（地元曽根区による花畑） 地域の団体・サークル・小中学生の発表の場
	京丹波特有の風景・くらしの体感	来訪者向け		
	地元住民の活動	地元住民向け		
情報発信拠点	地域の情報発信・観光案内	来訪者向け	地域情報発信センター 周遊サービス施設	<ul style="list-style-type: none"> 京丹波町の観光地（周辺施設、地域のイベント）の情報が紹介されているガイド・パンフレットの設置やCATVでの放映 近隣の地域を含めた丹波地域全体の楽しみ方を紹介 WiFiの導入等のインターネット環境の整備による地域の情報発信 地域の紹介や地元団体・サークルの作品等の展示スペース 利用者の京丹波に関する疑問に対する説明や利用者のニーズに合わせた観光案内等、コンシェルジュが常駐しているコーナーの設置 町営バスの停留所の配置とともにバスの発着案内 ※1町営バスについては、バスによる周遊とともに、地元住民の地域振興拠点へのアクセスとしての利用も見込む。
	町の文化・農業・なりわいの発信	来訪者向け		
	周辺施設への周遊促進	来訪者向け		
おいしさの拠点	地元食材の飲食	来訪者向け	飲食施設	<ul style="list-style-type: none"> 地元産農産物と美しい風景を両方堪能できるレストラン 栗・黒豆等の地元の食材を使用したフードコート レストランのランチは、ビュッフェスタイルで提供
	地元野菜の販売促進	来訪者向け 地元住民向け	特産物販売施設	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特産品や新鮮な食材、また周辺の加工場・共同作業所等で製造された製品等の品数をそろえた施設 野菜等農作物の販売施設 朝市や夕市を開催するための施設 道路利用者の利便性を踏まえた弁当・飲料等の販売コーナー
	地元店舗等の出店	来訪者向け 地元住民向け		
	農業支援	地元住民向け	ミーティングルーム	<ul style="list-style-type: none"> 地元農家で構成される販売部会への農作物の生産、品質に関する会員研修等をはじめ、出荷や梱包等に関する研修等を行う施設
	新たな商品開発	来訪者向け 地元住民向け	加工施設	<ul style="list-style-type: none"> これまでに地域になかった新たな京都丹波ブランドとなりうる加工品（地域振興拠点で販売）を製造するための施設 須知高校の食品科学科の販売実習や地元女性グループによる開発・製造施設 瑞穂そば、黒豆うどんや米粉を使用したスイーツ等テイクアウト商品の開発・販売
その他	休憩	来訪者向け	便所	清潔で利便性が高く立ち寄りたくする便所
			バウナールーム	女性用バウナールームの設置
			多目的トイレ	利用者に配慮した多目的トイレ
			授乳室	清潔で暖かみのある授乳室
	管理	管理者向け	管理施設	<ul style="list-style-type: none"> 京都縦貫自動車道の上下線及びび一般道向けの駐車場 地域振興拠点を管理・運営するための施設
	省エネ	管理者向け	省エネ施設	<ul style="list-style-type: none"> LED照明 太陽光パネル設置
防災拠点施設	地元住民向け	交流広場 上屋 駐車場等	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における救援物資等の中継基地 防災拠点兼イベント広場として、テント屋根の上屋を配置 救援部隊等の活動拠点 道路利用者の一時避難施設 	